教員研修

木山三佳*・田川麻央**（外国語学部日本語学科教授*・外国語学部日本語学科講師**）

概　要

日本の学校に在籍する外国人等児童生徒の指導にあたる先生方が専門的な知識を身につけられるよう、日本語が十分ではない児童生徒の学習支援、日本語指導についての研究成果や教育方法についての教員研修会をおこなっている。

Ⅰ．はじめに

2018年度日本語指導が必要な児童生徒数は5万人を超えた。多様な背景を持つ外国人等児童生徒に対する日本語・生活・学習等の指導は専門的知識を必要とする。明海大学外国語学部日本語学科では、日本語指導が必要な児童生徒に対する日本語教育を行うことができる教員や指導者の養成を行っており、その教育・研究の成果をお伝えするべく、地域の学校現場で外国人等児童生徒の指導にあたる先生方に向けた教員研修を行った。

Ⅱ．研修の概要

2020年12月 4日　東京都立飛鳥高等学校教員向け日本語指導講座
　13時30分~15時30分　東京都立飛鳥高等学校　参加者28名
2020年12月22日　足立区日本語指導研修会
　15時~16時30分　足立区勤労福祉会館　参加者10名
2020年12月23日　東京都立田柄高等学校教員研修
　14時~15時30分　東京都立田柄高等学校　参加者20名

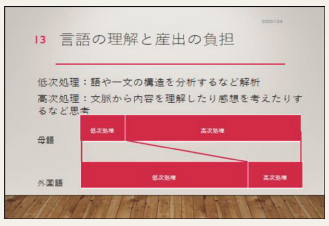
Ⅲ．研修の内容・ご感想

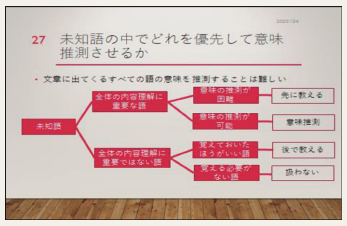
Ⅲ-1. 東京都立飛鳥高等学校

●「外国人生徒のための語彙学習支援」
担当：田川　麻央

高校生活では、日本語が発達途中であっても日本語で書かれたものを読まなければならない場面が数多くある。読むために知っておかなければならない語彙が膨大にあるが、どのように語彙を増やせばよいのだろうか。また、文章の中で未知語に出会ったとき、どのように対処すればよいだろうか。この2点について整理した。

語彙は理解語彙と産出語彙に分けて捉えられる。理解語彙とは聞くか読むかできればいいというもので、産出語彙とは話したり書いたりできたほうがよいものである。科目や生徒のレベルによっても理解語彙、産出語彙は変わってくるが、この視点で各科目の語彙を整理することで、生徒の語彙習得の負担を軽減し、学習の効率化につながる。語彙を増やす学習方法は、意図的学習と偶発的学習に大別できる。意図的語彙学習とは、学習者にとって必要な語を意識的に覚えるというもので、例えばリストを作るなどがそれにあたる。偶発的語彙学習は教科書などで偶然出会った語を自然と覚えていくという方法で、多読などがある。これらを組み合わせ、繰り返し語に触れる機会を作ることが語彙習得には不可欠である。また、日本語の文章を読んでいると必ずと言っていいほど未知語に出会う。未知語の対処としては、文章中にある明示的な手がかりを見逃さないようにすること、何となく未知語の意味がわかってもすぐに決定せず、読み進める中で慎重に意味を当てはめて確認したり修正したりすること、文脈の中で語の重要性を判断し、未知語の意味を追求することをやめることもときには必要であるというようなストラテジーが挙げられる。未知語の対処ストラテジーを臨機応変に使いこなせるよう、訓練の機会を用意することが望まれる。





ご感想

東京都立飛鳥高等学校　全日制副校長　池田　厚

今回、講義いただいた内容は、日本語指導を行うために欠かせない「語彙を増やす」ことに関するものでした。言語を理解するメカニズムや理解をする上での問題点、具体的な語彙の増やし方など、今後、それぞれの教科指導を行っていく上で利用できるベーシックな内容が中心でした。全日制および定時制の教員合わせて約30名が参加し、昨年同様の内容の濃い充実した研修会となりました。

東京都立飛鳥高等学校　主任教諭　阿瀬知　英人

日本語指導が必要な生徒が年々増えていますが、正直、どのように支援したらよいか深く考える事がありませんでした。

今回の研修を受け、外国人生徒が日本語を理解する上で、何につまずいているのかを考えることが大切だと思いました。また、理解語彙と産出語彙のどちらなのかを伝えてあげることも重要だと知りました。

今後は、漢字や熟語で覚えようとしている生徒には、短文や語彙で覚えるように指導していきたいです。

東京都立飛鳥高等学校　定時制課程　主任教諭　島村　学

飛鳥高校は約7割の生徒が外国ルーツです。日本語が苦手な外国ルーツの生徒に対して、どうすれば上手くコミュニケーションを取ることができるのか試行錯誤しています。今年度は外国語学部日本語学科の田川先生より「外国人生徒のための語彙学習支援」というタイトルで御講義いただきました。理解語彙と産出語彙については、今後生徒を支援する上で大変参考になります。このような貴重な研修の機会を与えていただけることに、感謝しております。

Ⅲ-2. 足立区日本語指導研修会

●「日本語指導が必要な生徒の課題とその背景」
担当：木山　三佳

日本語指導が必要な生徒の課題とその背景について、言語、認知、社会の各側面から先行研究からわかっていることを解説し、さらに必要な支援について整理した。　第二言語習得のためには音韻知識や漢字など正しい規則を習得させるように支援することを意識する、認知的発達のために母語を発達させ続ける、日本語モノリンガル生徒との協働的な活動を取り入れる、などが大切である。　最後に、指導において使えるWeb上の資料を紹介した。

ご感想

● 足立区日本語指導研修会参加者アンケートより

課題の中に自分のクラスの児童が直面している課題が多くあり、この課題をどのように解決したらよいか毎日悩んでいました。その中で自分がやってあげられていたことやできていないことが明確になりました。また、母語の重要性についても改めて感じました。私のクラスの児童は母国語、英語、日本語を話しています。しかし、母国語以外はあまりしゃべれません。しかし、家族とのコミュニケーションも考えると母国語も大切にしてほしいと思いました。今後は、今日学んだことを生かしながら児童の経験や気付きをいかして指導していきたい。また、発音ができていないところもあるので、リズムディクテーションを取り入れて少しでも課題を解決してあげたいと思います。

Ⅲ-3. 東京都立都立田柄高等学校

●「中上級の指導」
担当：木山　三佳

中上級レベルの学習者に対しては、専門的な状況や抽象的な内容を扱う課題に対応できる日本語力を養成する。そのために言語的にも認知的にも高度な処理が必要となる。中上級レベルに達した外国人等生徒を、高校の教科学習の深い理解に導くためには、トップダウン処理を促し既有知識と十分に関連づけること、学習文脈に埋め込んだ形で日本語を学ぶこと、が重要である。授業での実践方法として、1）「学ぶ」のではなく「使う」つもりで読ませる、2）前もって全体像を与える、3）　メッセージの多様性を利用する、という提案を具体例を挙げながら説明した。

ご感想

東京都立田柄高等学校　副校長　奥脇　次郎

本校担当教員からの希望により、「中上級の指導」という題材でいただいたことを感謝申し上げます。

私個人としては、ゆっくり丁寧に教えることのみを考えていましたが、「様々な日本語能力レベルの中で、中上級の生徒にも適した教え方がある」ことを教えていただきました。

これぐらいは知っているだろうとか、背景的知識に関する配慮が足りないと、生徒の躓きを招いてしまうということも、本校での指導の参考になりました。

是非、今後ともよろしくお願いいたします。

東京都立田柄高等学校　教諭　毛塚　篤志

まずは、年末のお忙しい中、またコロナ禍での講演をしていただいたことに心から感謝申し上げます。

参加した職員の一人は、文章理解の深さには三つのレベルがある、という話が大変参考になった、と申しておりました。私自身も、勉強になることばかりでした。学んだことを指導に活かし、生徒の躓きを減らせるように努めなければ、と改めて感じた次第です。　今後とも何卒よろしくお願いいたします。

Ⅳ．まとめと今後の課題

日本語指導支援で遠隔授業の設備が整っている飛鳥高校では、遠隔による研修という新しい形態での実施となった。遠隔オンラインを含め開催方法の多様化は、感染防止の徹底という新たな仕事が加わったことで多忙を極める先生方にとって、新しい参加の方法を提案できるものと考える。設備の整備、コンテンツの充実を図っていきたい。